

在京白聖會報

第7号

平成11年10月1日

スリーサイン 九九九、飛躍！

新しいミレニアムへの旅立ち

第30回在京白聖会総会を終えて

私たち昭和42年卒の在京疾風会は、「九九九、飛躍！ 新しいミレニアムへの旅立ち」というキャッチフレーズを掲げ、第30回在京白聖会総会の幹事役を務めさせていただきました。

母校の大先輩・宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」と、アニメの名作「銀河鉄道九九九」に引っかけ、21世紀に向けて大きく羽ばたこうというメッセージをこめましたが、いかがでしたでしょうか。

ホームページでもPR

在京白聖会 総合連絡
盛岡中学・盛岡高校・盛岡一高 在京同窓会

中

写真速報-1

第30回 在京白聖会 総会

第30回在京白聖会総会の様子は疾風会ホームページでご覧いただけます。

http://www.bekkoame.ne.jp/~yasato/



約230人の“白聖人”が一堂に
(5月13日、青山フロラシオン)

今年はいろいろな点で、大きなエポックになったと思います。ホームページや電子メールなど多様なメディアが普及し、同窓会のPRや連絡の手段として身近に活用できるようになったからです。今回、幹事の佐藤泰久さんが立ち上げてくれた「疾風会ホームページ」は、在京白聖会の活動を若手

発行 在京白聖会

東京都千代田区神田佐久間町1の11

産報佐久間ビル

産報出版(株)内

TEL&FAX
03(3254)9301

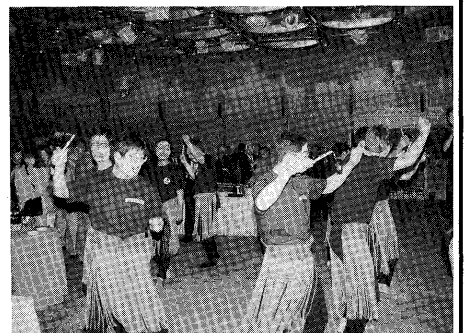
会員らに知ってもらおうと、たいへん役に立ちました。電子メールは、幹事間の連絡や会員からの問い合わせ手段として、とても便利でした。

また、節目節目で、活字メディアも活用しました。今回、私たちはオール疾風会ということ、盛岡の本部をはじめ全国の会員にも手伝ってもらいましたが、その周知のための機関紙として「疾風会だより」を五回発行しました。これも、コンピュータで簡単に編集できるようになったおかげです。

記録用などに映像も活用しました。特にアトラクションの練習時間がなかなかとれないため、ダンサーには自主



「世に詠われし浩然の
大氣をここにあつめたる……」



「ノーナマニサバヤンプリマ〜」
土人踊りをジャズダンス風に

練習用ビデオを配布しました。約一時間にまとめた今回の記録ビデオは、希望者に二千円でお分けしています。

このように、活字をはじめ、電子から映像まであらゆる媒体を活用したのが、30回を迎えた今回の総会の特長ではなかったかと思えます。

一方、アトラクションに関しては徹底的に一高の伝統と手作りにこだわりました。便利なデジタルは、アナログの心をもって利用してこそ生きると考えたからです。

猛者(土人) 踊りに関していろいろな意見があることは承知しておりますが、もともと白聖魂というものがあるとして、それは理性を超越したもののようです。そのことを痛感すると同時に、幹事として汗をかいてはじめて、その神髄のようなものに触れることができたと思っています。

わが疾風会は、今回の幹事役でこれまで以上に強い絆ができました。

(昭和42年卒 山田武秋)

経済の国際化と精神文化

川村六郎 (昭和29年卒)

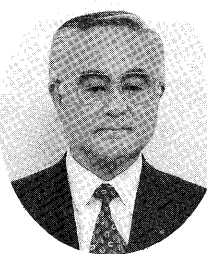
文化論が経済の局面では通用する余地は少ないということですが。

今日日本のすべての企業は、平成十二年四月からスタートする戦後最大の企業会計基準（制度）の改革を前に切迫した対応を迫られ、経営を根幹から見直す大改革に取り組んでいます。その背景には会計基準の国際的調和が絶対的に求められ、本当の意味で日本の鎖国政策が破綻し、開国へ一歩踏み出しました。

経営者は、明治維新の武士の変貌以上に、経営環境の激変に、日夜苦吟しながら企業の構造改革に取り組んでいるのが現状です。これはいわゆるグローバルスタンダード（国際会計基準）の経済社会に日本も組み込まれることです。言い換えれば、アングロサクソンの論理が世界を席卷し、日本の

しかしこれは資本の論理の世界の話で、日本の伝統・文化においては、ますます民族としての特性が重要視されるのではないのでしょうか。戦後われわれは、よって立つ精神的基盤（基準）を見失い、日本人はどんな国民性なのか、あるいは世界のなかでどんな特性を持った民族なのか、判然としなくなっています。

日本は古来儒教の文化圏にあり、無意識のうちにわれわれの精神構造はその影響下で育まれました。これは封建的ということで、戦後すべてが否定されましたが、果してよかったですか。



私は、幼少時代からわれわれの精神の基盤を作ってくれた岩手の風土、そして盛岡就く盛岡

一高で多感な少年時代を過ごしたことに、言い尽くせない感謝の念を持っています。自由闊達な校風のなかで個人の尊重と競争の厳しさを教えられた、まことに肥沃な風土でした。

盛岡一高の卒業生は、官公庁関係での活躍が多いのではないのでしょうか。また、西武百貨店の堀内社長は昭和41年卒であり、業界の仲間として先日一献傾けました。堀内氏は明確なビジョンを持った経営者で、業界人として心強く思っております。ぜひ後輩の皆さんも、「経済」の分野を目指してもらいたいものだと思います。

(京王百貨店(株)社長)

「岩手の心」を弦に響かせ

「五月の柳の北上川で 馬こチャグチャグ鈴が鳴る・・・」。

これは、琴奏者の松坂典子さん（平成二年卒）が、箏曲のために編曲し、リサイタルで演奏した「チャグチャグ馬コによる小さな変奏曲」の一節です。

箏曲界のホープ、松坂さんは盛岡一高を卒業後、東京芸術大学邦楽科・大学院を修了、ドイツ公演やフランスで

の世界民族音楽フェスティバルなどに出演、日本の琴の美しい音色を海外に紹介しています。

一高時代は、応援団の「追っかけ」で、「男子に生まれていたら・・・」と夢見たとのこと。また、運動会の「白聖幼稚園」では、芸大の先輩でもあるピアノニストの森和英さん（S63年卒）とは園長と園児の間柄？。

来年二月に東京公演が予定され、「岩手の心」を弦に響かせてくれるでしょう。

創立の思い出

八重畑達男 (昭和18年卒)

昭和四十四年五月十三日、上野精養軒にて、在京白聖会創立総会が百余名の参加を得て、盛大に懐古と感激の裡に開催されました。

歓談のうちに酒がすすみ、上野の森に応援歌、校歌を高吟しました。甲子園野球大会では、準々決勝まで進出し、沖繩興南高校と対決したのでした。本土返還の直前で観衆は敵に声援を送り、残念ながら惜敗しましたが、バンカラ応援団と我が校歌を全国に披露し感動させました。

また、翌昭和四十五年は母校の創立九十年で、意気盛んな時代でした。白聖会の事務所を、岩銀東京支店ビルの工藤祐正さんの法律事務所にお願いました。基金が皆無で世話人達が神田駅前飲み屋で「募金願ひ総会」の案内を発送する始末でした。

総会で飲み過ぎ資金不足が判然した時は、帽子を会場で回し先輩諸兄に大層ご迷惑をかけ温情に甘えた事もありました。その後は、年々歳々幹事期の方々の工夫努力が効を奏し、大勢のご婦人の参加が花を添え感謝感激です。



運営体制、固まる

幹事の確認願います

平成十一年度の在京白聖会の運営体制が固まりました。事務局の変更（4面参照）もあり、新役員は左の通りとなります。

また、登録いただいている各卒業年次の幹事は、下の名簿の通りですので、ご確認ください。もし、追加・変更・誤りがあればご容赦いただき、事務局にご連絡下さい。さらに、各同期会の「愛称」をお知らせ下さい。例えば、昭和42年卒同期会は「在京疾風会」というネーミングです。とりまとめ、次号に掲載したいと思えます。現在、在京白聖会に登録されている会員は約三千五百人ですが、今後はさらに名簿確認をして拡大いたします。

お願い

会の運営のために、みなさまに年会費二千円の振込みをお願いしておりますが、未納の方は同封の「払込用紙」にて納入をお願い致します。

（事務局より）

在京白聖会役員（敬称略）

会長	及川 昭伍 (S25)	外山 浩子 (S32)
副会長	大平 洋司 (S26)	松橋 輝男 (S25)
常任幹事	八重畑達男 (S18)	戸澤 聰 (S40)
	田野 成智 (S39)	星野 健秀 (S43)
	山田 武秋 (S42)	橋本 玲子 (S60)
	日向 裕司 (S54)	
事務局次長	馬場 信 (S41)	岩澤 新治 (S45)
事務局次長	白石源次郎 (S41)	
會計	岩瀬佐千世 (S48)	

在京白聖会幹事（敬称略）

S12 佐藤 吉平	S34 田村 捷利 細越 峻	S55 佐藤 淳 沢 完治
S13 佐藤小太郎	S35 太田 敏 照井 英夫	S56 小原 公一
S14 手塚 光郎	S36 間瀬 隆男	S57 村上 秀哉
S15 坂水 孝	S37 畠山 繁 春山攻一郎	S58
S16 藤田敬一郎 阿部 文弥	S38 坂井 興一 吉田 昌弘	S59 村上 太
S17 小綿 恭一	S39 神 啓子 田野 成智	S60 橋本 玲子 及川 孝信
S18 荒木田和世 八重畑達男	S40 谷藤 典昭 戸澤 聰	S61
S19 館下 忠夫 宮野 和夫	S41 畠 順一郎 藤原 昭夫	S62
S20(A)國安 輝久 春山 節男	S42 船越 巧子 山田 武秋	S63 菊池 拓
S20(B)萬 藤五郎	S43 玉沢 健児 森田 健二	H1 佐々木康文
S22 小川 達男 鎌田 潤一	S44 片山 卓朗 佐々木豊文	H2
S24 小川 茂 佐々木則雄	S45 岩澤 新治 加藤 文也	H3 泡淵 栄人
S25 内田 禎二 幅館 悠	S46 岩泉 宏 羽根川 信	H4 野崎 俊剛
S26 大平 洋司 切田 義憲	S47 川辺 昌志	H5 清水畑貴彦
S27 浅沼 栄一 藤原 禎助	S48 岩瀬佐千世 戸田 純	H6 砂山 朋子 千葉美由紀
S28 小田島雅也 川村 伶	S49 谷地 孝	H7 日山 涉
S29 興津 維信 小林騏一郎	S50 佐藤 法雄 松坂 裕希	H8
S30 佐藤 陽二 村井 礼子	S51 橋本 守	H9
S31 阿部 克行 松尾 忠良	S52	H10 吉田 透
S32 川口 一夫 外山 浩子	S53 浅利富貴子	H11
S33 綾部祥一郎 湯浅 正	S54 日向 裕司	

（昭和卒業年次は「S」、平成卒業年次は「H」で略記しました。）

事務所が変わりました 事務局長に馬場さん

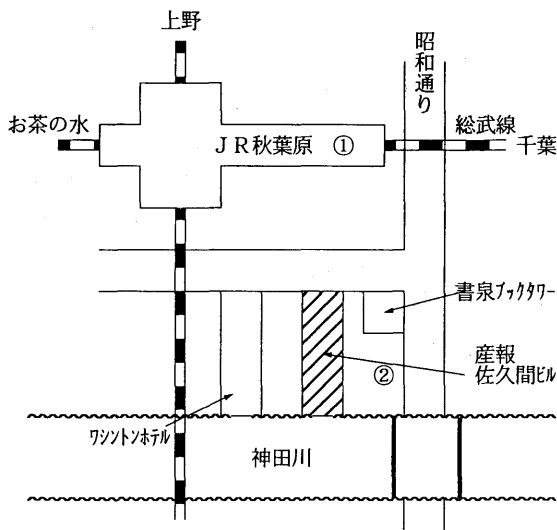
今年の総会で、これまでの星野健秀法律事務所に変更、産報佐久間ビル（下図）への事務所変更が了承されました。

併せて、新事務局長には馬場信さん（昭和41年卒、産報出版（株）社長）が、事務局次長に白石源次郎さん（昭和41年卒）と岩澤新治さん（昭和45年卒）が任命されました。

新事務所はJR秋葉原駅のすぐ近くで、会議室もあり、会合や諸作業の場所としてピッタリ。また、平成卒業生も含めた若手のスタッフも揃いつつあり、今後の組織拡大が期待されます。

在京白聖会事務所案内図

101-0025 東京都千代田区佐久間町1-11 産報佐久間ビル
産報出版（株）内
TEL&FAX 03-3254-9301



- ①: JR秋葉原駅 昭和通口徒歩1分
- ②: 営団地下鉄日比谷線秋葉原駅 5番出口徒歩すぐ
- ③: 都営地下鉄新宿線岩本町駅 秋葉原方面出口徒歩2分

在京白聖会第一回総会は、上野の精養軒だった。大先輩方に交じって下働きましたことを思い出す。
私は若い方で、知っている後輩は政治家修行中の玉沢徳一郎（S31年卒）さんだけだった。裏方の親分は岩手日報東京支社編集部長の馬場勝行（S24年卒）さん。馬場さんの指揮で応援旗や式次第を玉沢さんと一緒に貼った記憶がある。

宿敵、

盛中を敬愛した志賀先生

平野恵一（昭和30年卒）

「他の同窓会とはひと味違う、若く明るい在京白聖会を創ってみたい。そのためのオープンな事務局に」というのが、馬場・新事務局長の抱負という。

私は愛校心が特別強く、創立総会の手伝いに参加したわけではない。当時お仕えしていた岩手旧二区選出の志賀健次郎（一関中学、T12年卒）代議士の「行ってきたら」というすすめで、駆けつけたようなわけであった。

先生は、在京白聖会設立の機運を高めた甲子園の全国高等学校野球大会にも、一高が勝ち進むたびに、「落ち着かないだろう、行ってこいよ。」と仰って、秘書の私に時間と小遣いを下さった。先生は盛中がお好きだった。関中時代は宿敵盛中を倒すことに全校が燃えていたようだ。日報の学力テストでも柔道大会でも勝てなかった頃、

盛岡で開かれた全県下中学生雄弁大会で自分が優勝したことが盛中を破った最初かもしれないと、ほほを崩して聞かせて下さった。
また、大学生活の記念に、外務次官の出淵勝次（M29年卒）さんから紹介

されるのだった。
先生は「いつか、在京白聖会で『関中から見た宿敵盛中』を話してみたい」と仰っていたが、その実現をみないまま平成六年九月他界された。葬儀委員長は玉沢防衛庁長官だった。

青春白聖

来年はいよいよ西暦二〇〇〇年。母校盛岡一高は、創立一二〇周年をかぞえ、四代目の新校舎「白聖城」の建設も、来年初頭の竣工に向けて順調に進んでいる。
そして、今年わが在京白聖会は創立30周年を迎えて、事務局が馬場信さん（昭和41年卒）の産報出版に置かれた新たなスタートを切った。

秋葉原駅のすぐ近く、交通至便もあって、たびたび同窓生が集まって交流を深めている。また、会の運営を支える事務局の雑務を、若手がボランティアで手伝う強力な体制ができてきた。この会報の封筒入れも新事務局で十数人の若手が、ワイワイおしゃべりしながら作業する（ここに書いてある）。

どうか先輩のみなさま、あたらしい事務局を応援してあげてください。
（編集子）